

2022（令和4）年度 競技規則変更についての質疑に対する回答（第二次）



2022（令和4）年9月20日

（公財）日本ハンドボール協会 競技・審判本部

※ 本回答は、5月初旬（5月29日 第一次回答）以降に皆さまよりお寄せいただきました競技規則変更に関するご質問への回答となります。

※ 第一次回答は、次の URL より確認できます。

http://www.handball.or.jp/rule/doc/2022competition_rule_qa.pdf

1. 「ボールがゴールキーパー（以下、GK）の頭部へ直撃した際の罰則の適用」について

<競技規則 8：8d、13：1a、8：7d、8：9d>

※ 『頭部を動かす』の解釈について

2022年6月17日付、国際ハンドボール連盟（IHF）が発表した『IHF Rules of the Game for Indoor Handball - Training material -』より、**打たれた**シュートを止めるために、**頭部（顔を含める）のみをボールの方向へと動かした**ことにより「**結果的に**」頭部にボールが当たった状況が挙げられました。

シューターとGKの1対1の状況で、GKがシュートを止めるためにジャンプをしている、あるいはシューターの方向へ動いている際、GKの**頭部にボールをぶつけた**のであれば、シューターに対し即座に2分間退場を判定します。

JHL研修会等でプレゼンを用いて、『GKがシュートされたボールの方向へ動いて防衛しているため、罰則の適用はできない。』と解説した1つの映像について、**頭部（顔を含める）のみを動かした**かどうか判断できないため、**解説の映像**としては**削除**します。

（※クリックすると削除する映像を確認できます。）

Q1. （第一次のQ&Aに対する質問）

「Q5. シュートを止めるために動いた・・・」について、シュートに対して垂直にジャンプしたGKの頭部にボールが直撃した場合については、「**頭部を動かした**」と解釈し「**罰則適用なし**」でよいか。

A. GKと1対1の状況下において、シュートを止めるためにジャンプをしている、あるいはシューターの方向へ動いているGKの**頭部にボールをぶつけた**のであれば、シューターに対し即座に2分間退場を判定します（競技規則8：8d）。

ただし、**打たれたボールの方向へと**GKが頭部を動かしている状況では、シューターへの**罰則は適用されません**。これらの判断は、その試合を担当する**レフェリーの事実観察や判断に基づく**ものとなります（競技規則17：11）。

Q 2. (第一次の Q&A に対する質問)

「Q 9. 頭部に直撃したにも関わらず・・・」について、8:8 d を適用する場合、アドバンテージはないとの解釈でよいか？それとも、GK の影響を見極める必要があるのか？

A. 優先すべきは GK の救護となります。

ご質問の状況では、アドバンテージを適用する、あるいは GK の影響を見極めることは不要となります。直ちに競技を中断し、GK の保護（安全確認）に努めていただければと思います。

ただし、強くないシュートやループシュートといったボールに対して、打たれたボールの方向へと GK が頭部を動かしている状況で、GK の頭部にボールはあたったが GK が痛がる、またはレフェリーを欺く行為がなく、GK に何ら影響がなければ、プレーの継続とします。（例示映像 1 ・ 例示映像 2）（※クリックすると映像を確認できます。）

Q 3. (第一次の Q&A に対する質問)

「Q10. ラインクロスや着地・・・」について、ラインクロスしたシューターが笛と同時に（シュートを止められるタイミングではない）放ったシュートが GK の頭部に直撃し、8:8d によりシューターを退場とした場合、再開方法はゴールキーパースローとフリースローでは、どちらが正しいか？

A. ご質問の状況では、ゴールキーパースローで競技を再開することが、正しい再開方法となります。その理由として、

① 競技は、レフェリーのラインクロスの判定の笛で中断となる（競技規則 12：1）

② GK の頭部にボールが直撃しているのは、競技中断中に起こった事象である

が挙げられ、上記①②および競技規則 13：3 より、ゴールキーパースローで競技再開となります（中断の理由に相応しいスローで競技を再開）。

Q 4. GK がボールの方向へと頭部を動かしている場合には「罰則は適用されない」と判断する具体的な事例があれば教えてほしい。

A. 例えば、本回答 Q 1. のように「打たれたシュートを止めるために、頭部（顔を含める）のみをボールの方向へと動かした」ことにより「結果的に」頭部にボールが当たった状況が挙げられます。

判断基準の一つとして、シュートを止めるためにしゃがみこむ、あるいは大きく横に移動する等の動作により先に位置を取っている GK の頭部にボールをぶつける状況と区別されるといいかと思えます。

なおこれらの判断は、その試合を担当するレフェリーの実事観察や判断に基づくものとなります（競技規則 17：11）。

Q 5. GKと1対1でない場合の頭部直撃の再開方法を確認したい。GKとシューターの間で防御側（以下、DF）がいて、GKの頭部にボールが直撃して跳ね返ったボールを攻撃側（以下、OF）が保持しシュートを放った場合、どの時点でプレーが止まり、どちらのボールで再開となるのか。

- A.** ご質問の状況では、OFプレーヤーがボールを保持した時点で競技を中断、その後競技は、ボールを保持しているOFチームのフリースローで再開されることになります。
- GKの救護を優先させるため、レフェリーは、競技規則運用に関するガイドライン「負傷したゴールキーパー（6：8）」により正しい運用を行う必要があります。
- また、レフェリーがプレーを中断した目的はGKの保護であり、競技規則14：1bにあるような「明らかな得点チャンスの際に、不当な笛が吹かれた」ことによる中断には該当せず、7mスローでの再開とはなりません。

Q 6. 頭部へ直撃は顔正面は分かりやすいと思うが、横をかすめたりした場合でもGKが倒れたり痛がったりした様子が見られたら、罰則を適用した方がいいのが、タイムアウトを取り、負傷の程度を確認した後に罰則を適用するのもありなのか？

- A.** GKへの影響を見極めることが、シューターを打ったプレーヤーに対して罰則を適用するかどうかの判断基準ではありません。競技規則8：8dを適用する際の重要な判断基準に、GKの頭部にボールが当たることで「ボールの軌道が明らかに変わる」ことがあります。
- ご質問の状況で、軌道が明らかに変わっていないのであれば、シューターに対して、競技規則8：8dを適用することはできません。

Q 7. 「頭部へ直撃」というのは、ボールの速度等を考慮して衝撃の度合いによって2分間退場に該当するかをレフェリーがその都度判断するという事なのか、頭部に当たった時点で、ボールの威力には関係なく2分間退場が適用されるのか。

- A.** 競技規則8：8dを適用する際、GKへの衝撃の度合いやシュートの速度は判断基準にしません。
- 競技規則8：8dが新設された背景には、GKを守ることを目的としたシューターに対するシュートコースへの注意喚起があります。加えて、保護されるGKにもその振る舞い方が求められることにもなります。

Q 8. 考え方として、「GKの頭部直撃」については、8:8 d以外の判定は適用されないのか？

例えば右写真は、顔にボールがめり込むほどの衝撃があるように見られる。このようなインプレー中のGKの頭部直撃は、危険行為として8:5 cなどにより失格を判定するべきではないか。



- A.** シューターがGKと1対1でシュートを打つという状況で、ボールの方向へと頭部を動かしていないGKの頭部にボールをぶつける行為に関して、競技規則8:9 dに示す状況（7mスローの実施の際）における失格以外、現段階でIHFは、指導委員会や医事委員会との協議により、**予防的な対策として8:8 dを設定（新設）**しています。しかしながら、状況によっては競技規則8:8 d以外にも、競技規則8:8 b、8:9 a、8:9 cあるいは8:6のいずれかに該当することもあります。例えば、あまりにも至近距離からのシュート、報復行為といった場面です。これらの判断は、その試合を担当する**レフェリーの事実観察や判断に基づくもの**となります（競技規則17:11）。

2. 「ボールサイズ（外周）」について

<競技規則 3:2、表1>

Q 9. ボールサイズを考えないといけなかった事例が過去にあったか。

- A.** 変更の経緯に関し、新競技規則変更の概要（2022年3月17日付）を参照ください。

3. 「スローオフエリアの新設」について

<競技規則 1:9、図1bおよび1c、10:5、13:1a、第15条 / 解釈 5>

Q 10. 会場ごとにスローオフエリアが、異なる色や配色となることもありうるか。

- A.** スローオフエリアを設置する場合は、**使用する会場等の事情も考慮**する必要がありますので、一つの大会で、配色の異なるスローオフエリア、異なる色のラインで円を描いたスローオフエリアとなることも十分ありえます。

主催者の判断で、以下のいずれかの方法にて直径4mのスローオフエリアを設置いただくこととなります。

- ・ プレーイングエリアとは異なる色で設置（国内では広告、チームマスコット等を想定）
- ・ 直径4mの円をラインで描く

※ [第一次Q & A](#) Q24. の回答も参考にしてください

Q11. 笛の合図の後の歩数は関係ないか。

- A.** スローオフエリアの中では、レフェリーの笛の合図の後に3歩以上歩く、あるいは走ることが認められています。
ただし、笛の合図の後に「3秒以上ボールを持つ」「ドリブルをする」「実施中にジャンプをする」ことは許されない行為となります（競技規則 10:5 a、d、e）

Q12. ゴールキーパーと同一定義となれば、1人の聖域と考え、スローオフエリアには、味方でも1人のプレーヤーしか入れないのか。

- A.** OF チームは、スローオフ実施の際にスローオフを行うプレーヤー以外に1名以上の味方のプレーヤーを、スローオフエリアの中に配置することが可能です。
スローオフエリアは、スローオフを実施する OF チームにとって「聖域」となります。

Q13. 競技規則 10:5 bに「少なくとも（略）片足がスローオフエリアの中にあるとき（略）スローオフの笛を吹くことができる」とあるが、片足の一部でもエリアの中にある（例えば、つま先だけなど）なら、スローオフの笛を吹いていいか。

- A.** 片足の一部だけがスローオフエリアラインに触れている、あるいは一部だけがスローオフエリアラインの中にある場合、競技規則 10:5 bの状況には該当しません。
少なくともどちらか一方の足が、スローオフエリアの中にある（かつ、ボールがスローオフエリアの中にある）とレフェリーが判断したならば、レフェリーはスローオフの笛を吹くことができます。

Q14. 「ボールがスローオフエリアの中にあり」について、スローオフエリアラインギリギリに片足がある場合、ボールはスローオフエリアの中には無い可能性があると思うが、その辺りの適用はどうなるのか？

- A.** ご質問のような状況では、投球準備のためバックスイングをしている、あるいは投球動作はしていないがボールは体よりも後ろにある場合、ボールは、まだスローオフエリアの中にはない可能性が高くなります。
このような観察の視点を持ちつつ、ボールがスローオフエリアの中ないとレフェリーが判断したならば、レフェリーはスローオフの笛を吹くことはできません（競技規則 10:5 b）。

Q15. スローオフ完了の基準について、「ボールがスローオフエリアラインを完全に通過したとき」とあるが、そもそもボールがエリアの中に無い場合はどのような扱いになるのか？

- A.** ボールがスローオフエリアの中ないとレフェリーが判断したならば、レフェリーはスローオフの笛を吹くことはできません（競技規則 10：5 b）。

Q16. ボールがエリアから外へ通過すればスローの実施となり、また、片足がエリア内の中にあれば OK とする評価となる考えですが、足がエリアの線上でパスを実施し、ボールがエリアから外へ通過となった場合、スローオフの完了となりますか。

- A.** 競技規則 10：5 c には「スローオフが完了したとみなされるまで、身体のどこか一部がスローオフエリアラインを越えてはならない」と記載されています。スローオフエリアラインの外側までが直径 4m のスローオフエリアとなり、ご質問のように状況でスローオフエリアの中からラインに触れての実施（スローオフエリアの外には出ていない）であれば、スローオフの完了となります。ただし「足がエリアの線上でパス」の状況で、その片足の一部がエリアの外に触れているのであれば、相手チームのフリースローとなります。

Q17. スローオフエリアの外側で DF プレーヤーがパスカットを狙った時、罰則の適用有無の判断は、ゴールキーパーズスローの状況と同じでいいか。

- A.** ゴールキーパーズスロー同様、スローを行うチームの相手チームは、スローオフが完了するまで、その空間も含め、スローオフエリアの外に位置を取らなければいけません。
- ・ スローを行うプレーヤーとの身体接触の有無も含め、DF は不正な位置にいないか
 - ・ 相手チームがゴールキーパー不在の状況でのスローオフの実施かどうか
 - ・ 競技終了前 30 秒間でのスローオフの実施かどうか

の状況も踏まえて、レフェリーはアドバンテージルールを適用するのか、中断し（再開方法も含め）罰則を適用させるのかを判断することになります。

Q18. スローオフに対する妨害の違反については罰則の適用とのことだが、レフェリーがその再開方法として 7m スローを判定するのは、「ゴールエリアに GK がいない場合」「残り 30 秒の場合」の 2 つという理解で正しいか。

- A.** 競技規則 10：5 h に該当する DF 違反行為によりスローオフの実施が妨害され、競技の再開方法が 7m スローとなる場面は、以下の 2 つとなります。

- 1) 相手チームが GK 不在の状況で、スローを行うプレーヤーが無人のゴールにシュートを試みる行為を妨害（競技規則 14：1 a、解釈 6 c）
- 2) 競技終了前 30 秒間におけるスローの実施の妨害（競技規則 8：10 c）

なお 1) に関しては、シュートは打てたがゴールに入らなかった場合も含まれます。

Q19. 10の4「相手チームのプレーヤーは、スローオフを行うプレーヤーから3m以上離れていなければならない」の文言はなくなるということか。

A. IHFの決定（競技規則10:9【注】を参照）を受け、日本国内におけるスローオフエリアの設置は、主催者の判断で決定することとしています。そのため、現行の競技規則では、

- 1) スローオフエリアを採用しないコート（従来の規程通り）
- 2) 異なる色でスローオフエリアを設置したコート
（例：直径4mに合わせて作成された広告やチームマスコット）
- 3) 直径4mのスローオフエリアをラインで描いたコート

のいずれかで、コートを設置することになります。主催者が1)のコート採用を決定した場合、スローオフ実施時には、**競技規則10:4が適用**（加えて、競技規則10:3、解釈5 スローオフエリアを伴わない実施も含む）されることとなります。

Q20. 相手チームがスローオフの際、DFの選手が、スローオフ前に意図的ではなくスローオフエリアに入ることにに対してアドバンテージを適用はあるのか。

A. ご質問のような状況において、**アドバンテージルールの適用**はありえます。

Q21. スローオフについて、笛の合図の後、ボールを持ったままスローオフエリアラインを踏み越えたら相手ボールになるが、エリア内にDFがいてその影響を受けてボール保持者がスローオフエリアラインを踏み越えた場合、エリア内にいたDFが罰則の適用という理解で正しいか。

A. ご質問のような状況では、当該DFに対して**罰則の適用**となります。

Q22. 競技規則には「走りながらスローができる」「スローオフエリアラインを越えてはならない」とあるが、スローが完了する前に、空中で体がスローオフエリアラインを越えることもあるという認識でいいのか。またその場合、DFはすぐ外にいることも考えられるが、そこで接触があった場合の判定はどうか。

A. まず「空中で体がスローオフエリアラインを越えることもある」というご質問について、例えば、ボールを持っていない腕が空中で出る、ボールをスローした腕が空中で出るとは、不正なスローとは判断しません。しかし、スローオフが完了するまで、スローオフエリア内の床に触れていた身体の一部が越えてしまうことは、不正なスローと判断します。次に「DFはすぐ外にいることも考えられるが、そこで接触があった場合の判定はどうか」について、ご質問の状況で、DFが少なくとも段階的罰則が付加されるような違反行為をしていないのであれば、DFに対する罰則の適用はありません。

4. 「パッシブプレーの予告合図後、パスの最大回数の変更」について

<競技規則 7:11、7:12 / 解釈 4 / 付録 4>

Q23. レフェリー側からのアナウンス「挙げます」の声かけ、「1、2、…」とパスの回数を声に出して数えることが必須になっていくという認識で良いか。

A. 必ずしなければならない、ということではありませんが、審判本部といたしましては、以下の理由により、その運用を推奨しています。

最大6回のパスから4回へと変更となったことで、チームにとって「**パス1回**」がより重要となります。「挙げます」の声かけや、パスの回数の声出しは、チームやプレーヤーにとっても混乱を生じさせることがない、円滑なゲーム運営のための方法の一つとして、例示しています。

Q24. 手を挙げるタイミングで注意しておかないといけない事はあるか。

A. 1回の攻撃、そして60分を通して、挙げるまで、挙げてからの

- ・ **OFチームの状況や振る舞いの観察**

(ウォーキングハンドボール、狙いを定めた攻撃活動への移行、得点差、残り時間、退場者の有無 等)

- ・ **DFの評価**

(競技規則に基づいた積極的な防御活動、相手チームよりも優位な防御活動 等)

- ・ **フリースロー直後は、短い組み立て局面をOFチームに認める**

(早く予告合図を示したいがために、1~2回のパスですぐに挙げないこと)

- ・ OFがボールを保持しているところで、予告合図を明確に示す

(ボールがパスされるタイミングでは、**空中で**予告合図を示すことになり、1回目のパスが**不明確**となってしまう)

等を**冷静**に観察、判断しつつ、よりスピーディーで魅力あるハンドボールへと、チーム・プレーヤーを導いていければと思います。

※ [第一次Q & A](#) Q27. の回答および「令和4年度競技規則適用について～最新の傾向から～」も参考にしてください

< お問い合わせのお知らせ（第2版） >

競技規則変更に関するご質問がある場合、以下の流れとし※Ⅰ、国内においてハンドボールに携わる全ての人々が情報を共有できるよう、個別による質問等への対応は、控えさせていただきます。

1. まずは自身が所属される審判長へ、ご質問をお伝えいただく
2. 1. の内容を、各都道府県協会審判長を通して、日本協会審判本部へ集約
※質問内容を確認し、**今までに回答したものと重なる質問**は各都道府県協会審判長からご回答ください。審判本部への送付はご遠慮ください。
また、**今回の競技規則改正と関係ない質問**の送付はご遠慮ください。
3. 日本協会審判本部より回答※Ⅱ

なお集約された質問に対する回答については、以下の通り、複数回に分けて日本協会ホームページへの掲載を予定しております※Ⅲ。

第一次集約

- ・ 5月初旬までにお寄せいただいた質問
- ・ 第一次回答として、5月29日に[日本協会ホームページ](#)を介して回答済み

第二次集約

- ・ 8月下旬までにお寄せいただいた質問
- ・ 第二次回答として、9月中旬を目処に回答（**本Q&A**）

第三次集約

- ・ 11月中旬までにお寄せいただいた質問
- ・ 第三次回答として、12月末を目処に回答

ご理解とご協力の程、何卒よろしくお願い申し上げます。

令和4年9月20日

(公財)日本ハンドボール協会 競技・審判本部
競技本部長 高野 修
審判本部長 福島亮一

※Ⅰ：ブロック協会審判長、各都道府県協会審判長、連盟審判長には既に依頼・周知済みです

※Ⅱ：日本協会ホームページへの掲載をもって、ご質問への回答とさせていただきます

※Ⅲ：期日については、状況を考慮して変更する場合があります

< 別表 > 新競技規則に係る各連盟における運用

競技規則 各カテゴリー	GKの頭部への ボールの直撃	新規格球の使用の 有無	スローオフエリアの 設置	パッシブプレーの予 告合図後のパスの最 大回数(4回)の変更	備 考
小学生委員会	適 用		J クイック方式の ため適用しない	全国小学生大会より 適用 (※1)	※1 予選は、各都道府県の実情に合 わせて適用、実施する場合は、参加 チームに告知する
中体連・中学生委員会	4月1日より 先行して適用	新規格球を大会球と して使用	全国中学校大会終了 後より適用 (※2)	全国中学校大会終了 後より適用 (※2)	※2 ジュニアオリンピックカップ では適用しない
高体連	適 用 (※3)	—	全日本高校選手権 大会終了後より適用 (※4)	全日本高校選手権 大会終了後より適用 (※4)	※3 都道府県予選より適用 ※4 全国高等学校選抜大会は適用
学 連	適 用	—	適 用 (※5)	適 用 (※5)	※5 東西学生選手権大会より適用
社会人連盟	適 用	—	全日本社会人選手権 より適用	全日本社会人選手権 より適用	
J H L	適 用	—	7月開幕より適用	7月開幕より適用	
ジャパンオープン 国民体育大会	適 用	—	適用しない (※6)	適用しない (※6)	※6 各ブロック予選大会 : 適用 各都道府県予選大会 : 可能な限り適用を推奨
日本選手権	適 用	—	適 用 (※6)	適 用 (※6)	

(参考)

注) 上記大会はすべて、2022(令和4)年度実施予定の大会です